

IAEA は福島第一原発の処理水の安全性に関する

第 1 回目の報告書を公表する

2022 年 4 月 29 日

国際原子力機関（IAEA）のタスクフォースは、福島第一原子力発電所の処理水を海洋放出するとして日本の方針について、関連する国際安全基準に照らしレビューを行っているが、その第 1 回目となる報告書を本日公表した。

この報告書は、放出に向けた技術的な準備について全体的な進捗をとりまとめたものである。2022 年 2 月に福島第一原子力発電所の運営会社である東京電力と経済産業省に対して行った IAEA タスクフォースによる第 1 回レビューミッションで得られた最初の見解をまとめたものである。

IAEA のグロッシェ事務局長は、最初の見解を歓迎した。「日本はその準備において著しい進捗があった。タスクフォースは、東京電力と経済産業省が 2023 年に予定されている放出に向け、正しい次のステップを特定したことに満足している」と述べた。「タスクフォースは、放出前に結論を出すことができるよう、作業を継続する」と述べた。

この報告書には、ALPS 処理水の性状、放出管理のために構築されたシステムとプロセスに関する安全性、放射線影響評価、規制監督、処理水と環境のモニタリング、職業的な放射線防護、利害関係者の関与などの幅広いテーマにわたるタスクフォースのレビューと評価活動の概要が含まれている。

日本が放出に向けた準備を続ける中で、タスクフォースによるレビューの次のステップに備え、さらなる議論と明確化が必要な技術的なトピックスを特定した。また、タスクフォースは東京電力と経済産業省が、放出までのプロセスについて、利害関係者や一般市民との意見交換やコミュニケーションに多大な努力をしていると言及した。日本が 2023 年の放出を迎えるにあたって、この努力が継続されることを期待している。

タスクフォースの議長であるグスタボ・カルーソ原子力安全・セキュリティ局調整官は、「タスクフォースは、レビューミッションの結果を明確かつ迅速に国際社会に伝えることを可能にした日本のカウンターパートとの効果的な協力関係を強調した」と述べた。

タスクフォースの報告書は、電離放射線の有害な影響から公衆と環境を守るための世界的な基準である IAEA の安全基準に照らして放出をレビューするために、タスクフォースが今後数ヶ月から数年にかけて日本でのミッションを遂行するにあたっての一連の報告書の最初のものである。

報告書は [ここ](#) から閲覧可能。